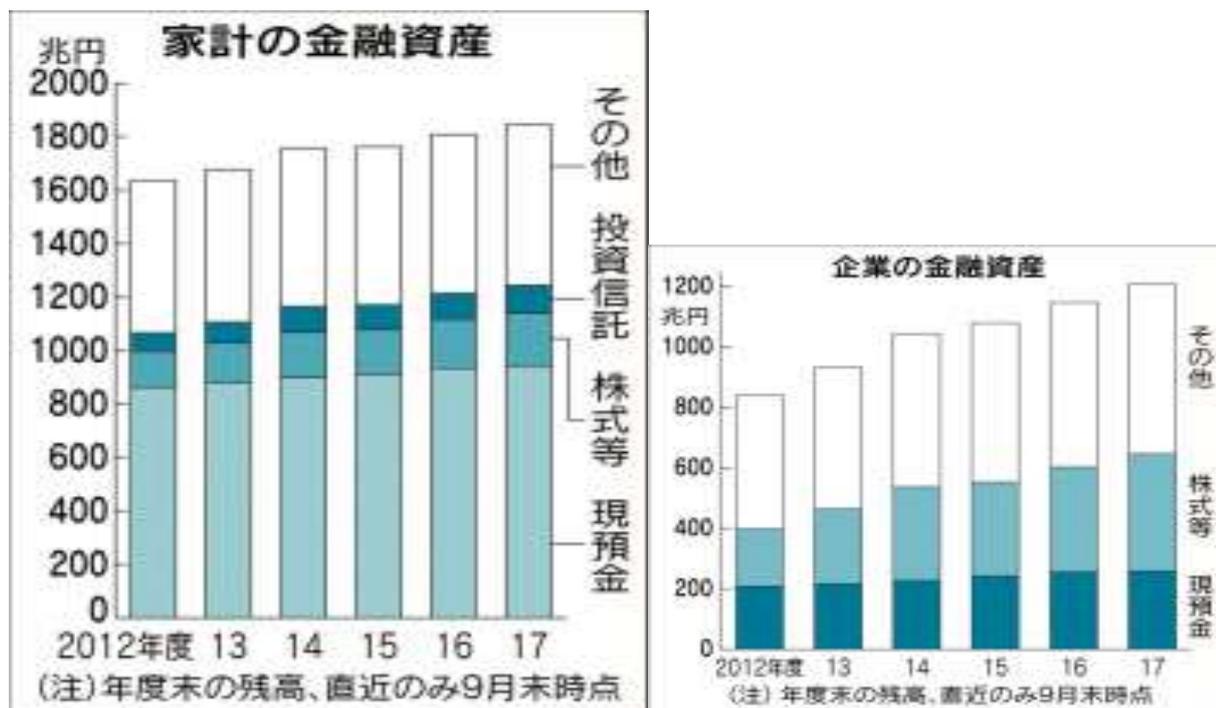


【9月末の家計金融資産、1845兆円 過去最高続く】 2017/12/20



家計と企業の金融資産が膨らんでいる。日銀が20日発表した7～9月期の資金循環統計(速報)によると、9月末時点の家計の金融資産残高は前年比4.7%増の1845兆円、金融を除く民間企業の金融資産残高は同15.3%増の1207兆円とそれぞれ過去最高を更新した。株価が上がり、株式の評価額が膨らんだ。現預金の増加も続いている。

資産別の残高の内訳を見ると、家計が保有する株式は22.1%増の198兆円、投資信託は16.3%増の104兆円だった。企業が保有する株式は27.4%増の387兆円だった。

世界的な好景気を背景に円安・株高が進み、株式や投資信託の評価額を押し上げた。日銀は「企業の金融資産の増加は対外直接投資や対外証券投資が増えた影響も大きい」と説明している。

家計と企業は現預金の保有も増やしている。家計の現預金は2.8%増の943兆円と43四半期連続で前年同期を上回り、伸び率は過去最高となった。企業の現預金も5.4%増の259兆円と35四半期連続で増え、残高は過去最高となった。金融資産のうち、現預金の割合は家計で51.1%、企業でも21.4%に達している。

日本の家計の金融資産に占める株式の割合は10.7%と欧米に比べて低い。企業は収益が過去最高を更新しており、金融資産が積み上がりやすい状況にある。金融資産の増加を家計の消費や企業の設備投資につなげられれば、デフレからの脱却に向けた追い風になる。///